

就農事例

吉田 和宏氏

調査日 令和7年6月（就農後12年目）

所在地 坂出市

経営主 吉田 和宏

主要事業 露地野菜、施設野菜、果樹

主要作目
ブロッコリー 400a
アスパラガス 50a
璃の香等かんきつ 20a

就農タイプ 新規就農（農家出身）

就農時期 平成26年

労働力
家族 2名（本人、父）
臨時雇用 3名

ヒストリーあらすじ

・香川県立農業大学校担い手養成科 野菜園芸コースで2年間（平成24年4月～平成26年3月）、野菜栽培管理全般について、知識、技術を習得した。農業大学校での2年間の在学中は、農業試験場でも研修を受けるなど、新規就農にあたり、積極的に技術習得に励んだ。

・その後、平成26年4月に就農。父親がもともと栽培していたハウスミカンの施設を活用してアスパラガスのハウスに転換した。さらにブロッコリーとの組み合わせで安定した経営を目指すこととし、認定新規就農者としてアスパラガス34a、ブロッコリー約100aで経営を開始した。アスパラガスについては、父親とハウス34aの貸借契約を結ぶとともに、新規就農者サポート事業や新規就農者向けの無利子資金制度を有効に活用し、さらに7aのパイプハウスを新設し規模拡大した。

また、就農当初からJAの作業支援を利用するなど省力的かつ効率的な栽培、出荷に取り組み、普及センターの指導のほか、JAの技術的な支援を得ることができた。さらに父親からのアドバイスはもちろんのこと、研修先であった農業試験場からの助言等も受けることができた。

・アスパラガス栽培においては、グリーンな栽培体系への転換を目指し、実証圃を設置してデータを収集し、土壌診断に基づいた効率的な施肥設計を行っている。また、新資材の試験的な使用や新品種の試験栽培の調査にも協力し、コスト削減を図りながら所得向上を目指している。

また、「香川県産 璃の香」の販売促進にチャレンジしており、飲食店などにPRしている。

・今後は、アスパラガスハウスを50a増築することを計画しており、環境抑制装置の導入を検討するとともに、土壌診断に基づく適正な施肥管理を行うことにより、収量安定化、経費削減を図る。

また、アスパラガスでは「さぬき讃ベジタブル」の認定を受けており、今後も生産拡大、品質向上、認知度向上に対して、意欲的に取り組んでいく。

エッセンス

●悔しい思いをバネに人とのつながりを大切に

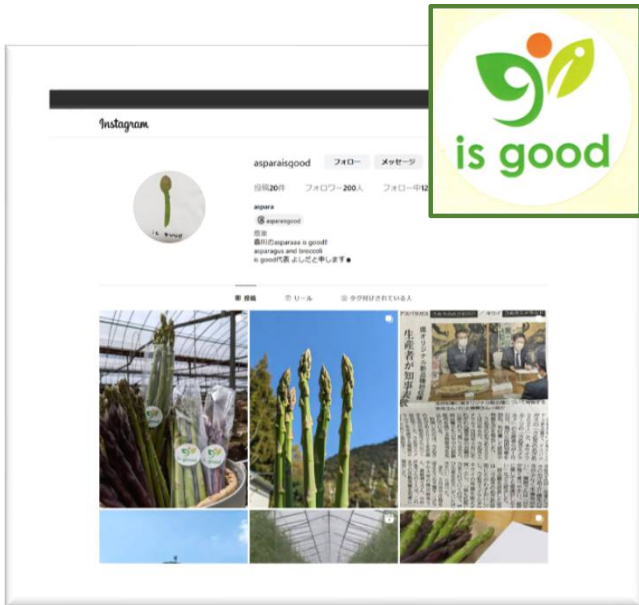
・就農時は栽培経験も乏しく、人から言われたとおりのことしかできない自分、何が悪かったのかが分からない自分に悔しい思いを抱いたが、それをバネに自己分析した結果、臨機応変に現場で対応できる情報が必要だと考えた。現場の課題を解決するため、農業大学校の同期や先輩から定期的にアドバイスをもらえるような勉強会を企画した。

●農業経営の安定に向けて、「自分で考える」を習慣化

・天候不順や病気の発生などから起こる生産物の状況について、「なぜこうなったのか？」と疑問に思い、栽培方法や天候不順対策について、自分で考えることを心がけた。

●青年農業士、里親として

・農業経営をスタートして12年になった。R3年度からJAインターン生の受け入れを行っており、その内2名がアスパラガスを主品目として就農した。地元小学校での校外学習にも協力しており、自らの経営改善を行うだけでなく、地域農業の理解促進に努め、香川県の農業を盛り上げていきたい。



Instagramの開設
屋号「is good」のロゴマーク



直販用パッケージ



アスパラガスの収穫



ブロッコリーの収穫



「農業士と新規就農者との現地
研修会」にて説明



地元小学生への収穫体験指導

吉田 和宏氏 ヒストリー<課題と対応策>

就農前	就農期 (平成26年～)	確立期 (令和元年～)	発展・将来構想 (令和6年～)
<p>●農業大学校にて農業の基礎知識・技術を習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就農に向けて、香川県立農業大学校で2年間研修を受ける。 ・実家が柑橘農家でハウスミカンを栽培していたが、施設をアスパラガスに転換。 <p>・野菜管理全般、経営管理等について、体系的に知識、技術を習得。</p> <p>・香川県オリジナル品種「さぬきのめざめ」が普及していたタイミングであり、チャンスと捉えた。</p>	<p>●認定新規就農者に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年4月、就農と同時に坂出市の認定新規就農者となった。親の経営の一部継承と規模拡大により、初年度はアスパラガス34a、ブロッコリー約1haで栽培をスタート。まとまった農地を確保することに苦労した。 <p>・ブロッコリーは、アスパラガスの裏作として収穫できるよう、品種・作型の検討を行った。</p>	<p>●雇用の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年から臨時雇用に2名導入。 ・雇用を導入したことでさらなる規模拡大が可能となった。休暇が取得しやすい環境づくりや、きめ細やかな指導に注力した。 <p>●令和元年認定農業者に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年10月、坂出市の認定農業者となり、より一層の農地集積や規模拡大を目指す。 	<p>●経営者として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アスパラガスの規模拡大と「香川県産 璃の香」の販売促進を目指す。 ・環境抑制装置の導入を検討するとともに、土壌診断に基づく適正な施肥管理を行うことにより、収量の安定化と経費削減を図る。 ・雇用を増やす上で、収穫の仕方などの動画による作業のマニュアル化や、グループラインによる情報共有を図っている。経営主からの指示がなくても作業が滞りなく行われる環境づくりに努める。
<p>●農業試験場での研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手養成科2年生時に、専攻実習先として、農業試験場でアスパラガスを学ぶ。 ・全国規模の研修会にも参加し、先進的農家の事例などで見聞を広め、刺激を受けた。 <p>・同級生や先輩、農業大学校の先生はもちろん、農業試験場でも積極的に技術習得に励み、人間関係の構築に努めた。</p> <p>・勉強していくうちに、独立自営の経営について考え、自分が目指す経営を達成するための就農計画を意識した。</p>	<p>●経営の安定を目指し勉強会の開催、ハウスの増設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・害虫の発生に対し、基本的な対策が十分に分かっていなかった。 ・新規就農者サポート事業、就農支援資金を活用し、ハウスを増設し、収量の向上を目指す。 <p>・農薬の選定など、疑問点を解決するため、農業大学校の同期や先輩と定期的に勉強会を企画し助言をもらうことができた。</p> <p>・JAの部会を含め、講習会に参加するとともに、困ったときは、研修先の農業試験場や普及センターに積極的に相談した。</p>	<p>・アスパラガスでは樹勢を確認しながらの灌水管理を、ブロッコリーでは防除を徹底して行うことで、収量・品質の向上を図り農業所得の向上につながった。</p> <p>●アスパラガスの認知度向上、販路拡大に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント「アスパラ大騒ぎ」への参加や、令和4年度に「さぬき讚ベジタブル」の認定を受ける。 ・ロゴマークや直販用パッケージなどの制作に取り組み、認知度向上、販路拡大に意欲的に取り組んだ。 	<p>●青年農業士、里親として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度からJAインターン生の受け入れを行っており、うち2名がアスパラガスを主品目として就農している。 ・地元小学校の児童にアスパラガス収穫体験指導を行っており、地域の総合学習に協力している。 ・里親として就農希望者へ教えることは、自分も反復・再確認でき勉強になると考えている。 ・農業への理解促進を図るとともに、農業や農地を守っていくことで地域振興に貢献したい。